

# 2012年3月期第3四半期 決算説明資料



HAKURYU-10 (地中海・スペインにて日の出を背景に)

2012年2月9日  
日本海洋掘削株式会社



# 1. 2012年3月期

## 第3四半期累計期間 決算概要

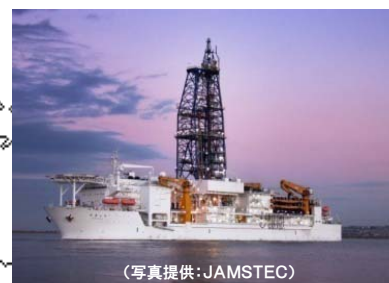
# 当社グループ運用リグの展開状況(2011年12月31日現在)



リグ名:SAGADRIL-1  
ペルシャ湾で操業



リグ名:SAGADRIL-2  
ペルシャ湾で操業



(写真提供:JAMSTEC)

リグ名:ちきゅう  
日本へ回航中  
リグ所有者:独立行政法人  
海洋研究開発機構  
(JAMSTEC)



リグ名:HAKURYU-5  
操業会社:UJD<sup>注1</sup>  
マレーシア沖で操業



リグ名:HAKURYU-10  
スペイン沖で操業



合併会社名:Gulf Drilling International Ltd. (GDI) <sup>注2</sup>








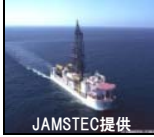
リグ名:NAGA 1  
操業会社:UJD<sup>注1</sup>  
マレーシア沖で操業

注1: UMW JDC Drilling Sdn. Bhd. (持分法適用関連会社)

注2: 持分法適用関連会社GDIは、ジャッキアップ型海洋リグ5基及び陸上リグ4基を保有し、カタール沖及び陸上にて操業中  
また、中古ジャッキアップ型リグ1基を購入し、海上宿泊施設に転用するための改造工事中

# リグフリート操業実績



2012年3月期		1Q			2Q			3Q			
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	HAKURYU-5	Daewoo社 ミャンマー								PCSB社 マレーシア	
	HAKURYU-10	Cobra Castor社 スペイン									
	SAGADRIL-1	POGC社/NIDC社 イラン									
	SAGADRIL-2		POGC社/NIDC社 イラン								
	NAGA 1	PCSB社 マレーシア									
	ちきゆう	JAMSTEC 日本			Cairn Lanka社 スリランカ					JAMSTEC 日本	

完工分
  工事・待機等

# 連結損益計算書(前年同期比)

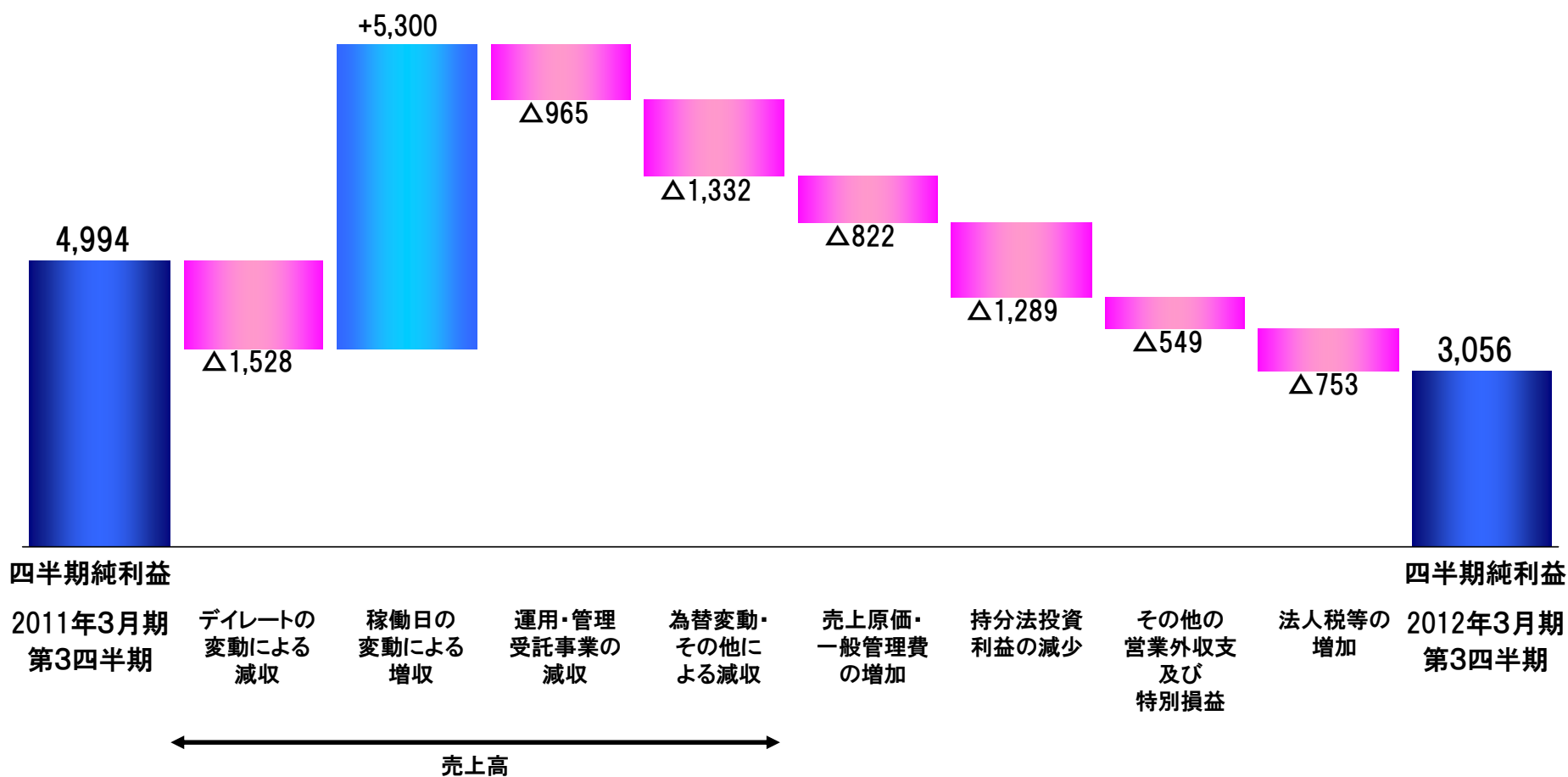


単位:百万円 (百万円未満切捨て)	2011年3月期 第3四半期	2012年3月期 第3四半期	増減	増減率	
売上高	21,944	23,420	+1,475	+6.7%	「ちきゅう」 : +4,306百万円 「HAKURYU-5」 : +1,220百万円 「SAGADRIL-1」 : △1,174百万円 「SAGADRIL-2」 : △1,374百万円 為替の影響 : △1,550百万円
売上原価	14,171	15,032	+861	+6.1%	
販売費及び一般管理費	2,531	2,492	△39	△1.5%	現地経費 : +722百万円 修繕費 : +483百万円 減価償却費 : △396百万円
営業利益	5,241	5,894	+652	+12.5%	
営業外収益	2,076	798	△1,278	△61.6%	持分法投資利益 : △1,289百万円
営業外費用	978	1,517	+539	+55.1%	為替差損 : +609百万円
経常利益	6,339	5,175	△1,164	△18.4%	
特別損益	△6	△26	△20	—	
税金等調整前四半期純利益	6,333	5,148	△1,184	△18.7%	
法人税等	1,305	1,870	+564	+43.3%	
少数株主利益	33	221	+187	+560.8%	
四半期純利益	4,994	3,056	△1,937	△38.8%	
1株当たり四半期純利益(円)	277.45	169.82	△107.63	△38.8%	

# 四半期純利益の増減分析(前年同期比)



単位:百万円



# 連結貸借対照表(前期末比)

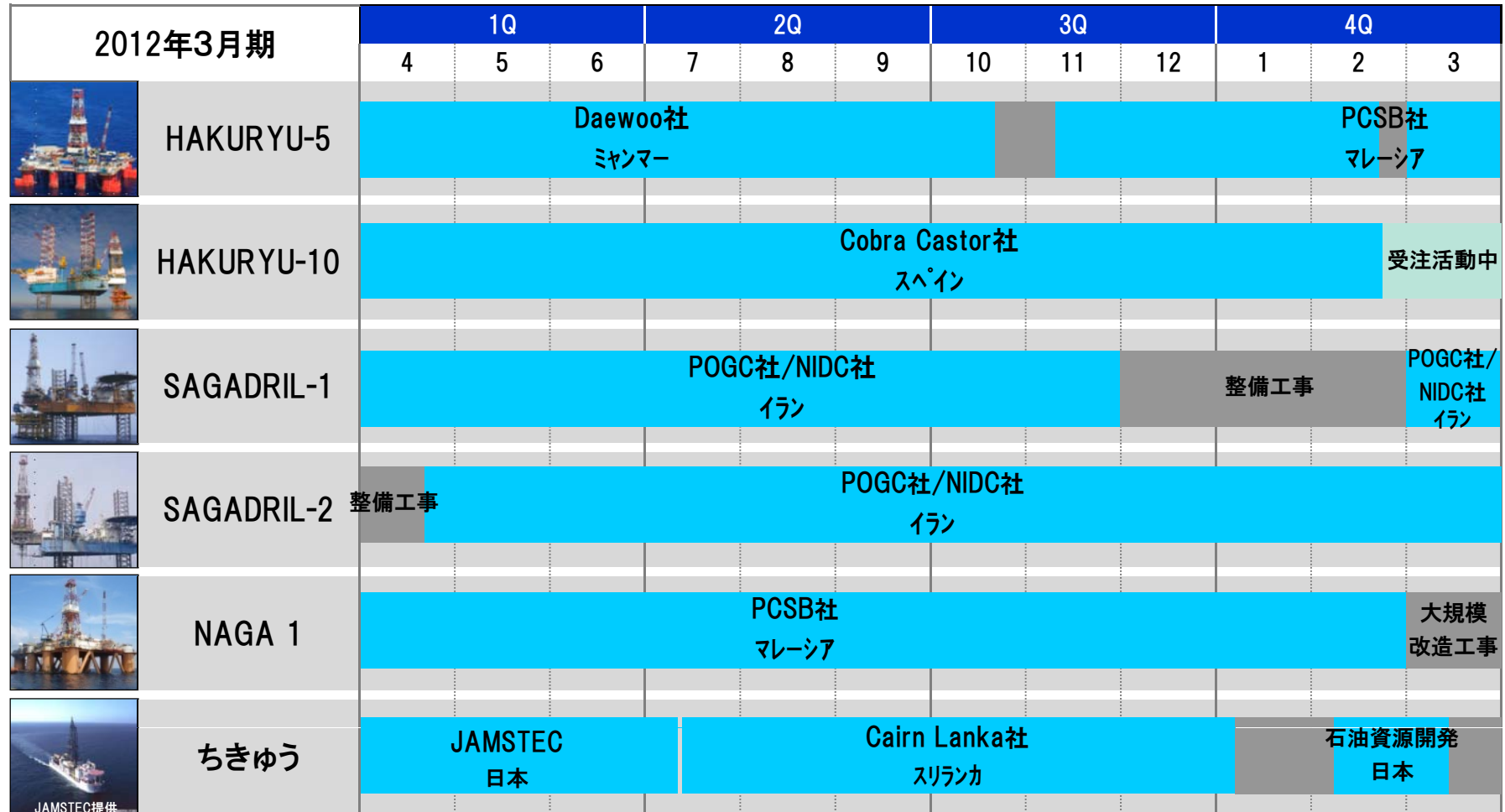


単位:百万円 (百万円未満切捨て)	2011年 3月期末	2012年3月期 第3四半期末	増減	増減率	
流動資産	35,124	30,184	△4,939	△14.1%	現金及び預金 : +2,502百万円 有価証券 : △5,900百万円 (譲渡性預金)
有形固定資産	23,506	22,090	△1,415	△6.0%	建設仮勘定 : +1,832百万円 減価償却実施 : △3,174百万円
無形固定資産	362	287	△75	△20.8%	
投資その他	8,810	9,322	+511	+5.8%	投資有価証券 : +274百万円
<b>資産合計</b>	<b>67,803</b>	<b>61,884</b>	<b>△5,919</b>	<b>△8.7%</b>	
流動負債	15,928	12,319	△3,608	△22.7%	短期借入金 : △4,320百万円
固定負債	9,148	6,409	△2,738	△29.9%	長期借入金 : △2,467百万円
<b>負債合計</b>	<b>25,076</b>	<b>18,729</b>	<b>△6,347</b>	<b>△25.3%</b>	
純資産	42,727	43,155	+427	+1.0%	四半期純利益 : +3,056百万円 配当金支払 : △450百万円 為替換算調整 : △2,313百万円
<b>負債・純資産合計</b>	<b>67,803</b>	<b>61,884</b>	<b>△5,919</b>	<b>△8.7%</b>	
自己資本比率	62.7%	69.0%	+6.3P	—	

## 2. 2012年3月期 業績予想

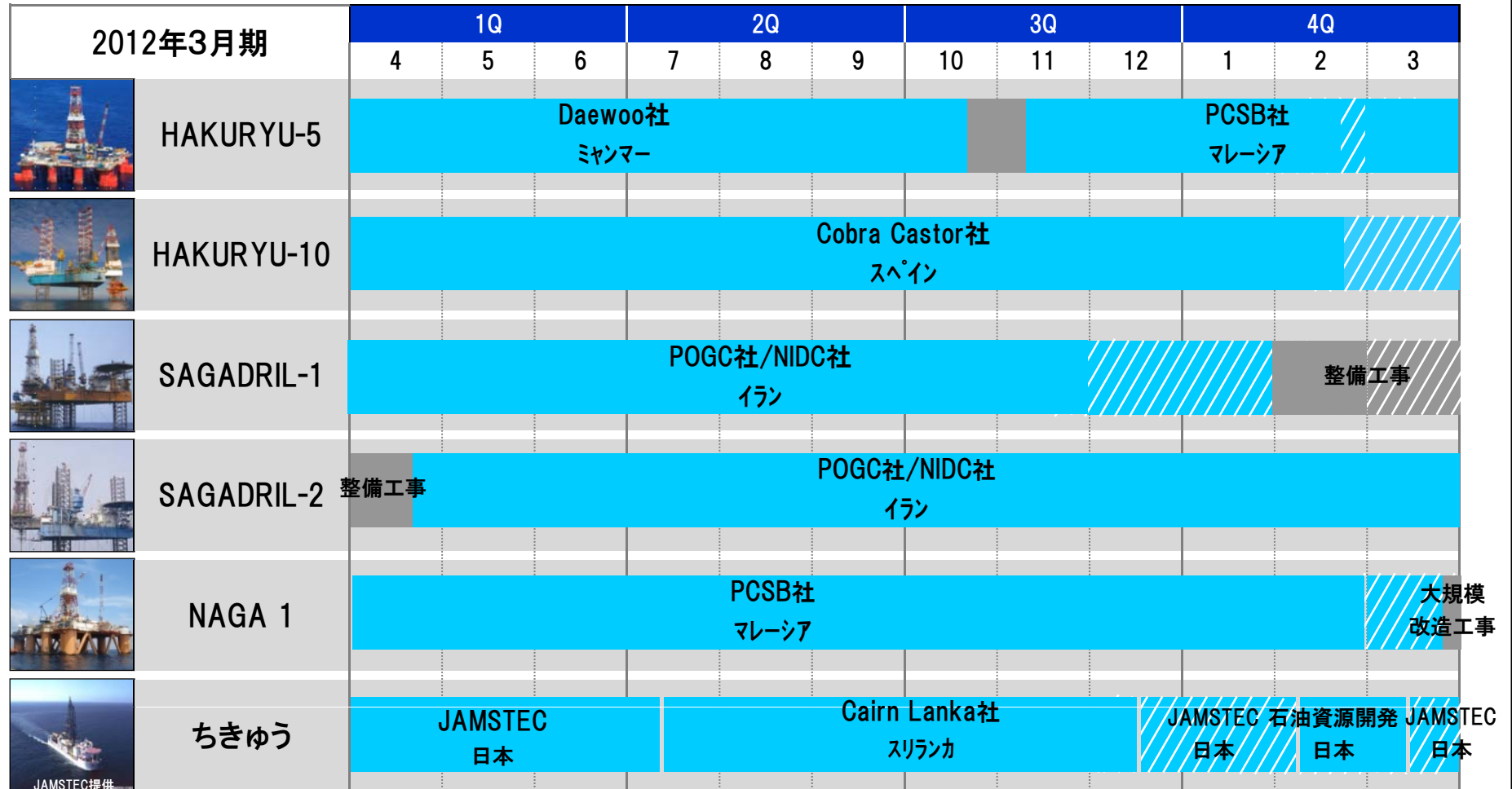


# リグフリート操業計画(前回発表: 11月4日)



契約済
  工事・待機等
  受注活動中

# リグフリート操業計画(今回変更:2月9日)



## 主な変更点

- 「HAKURYU-10」: 受注活動中期間を復員期間に変更
- 「SAGADRIL-1」: POGC社の掘削工事作業期間延長、及び整備工事開始時期変更
- 「NAGA 1」: PCSB社の掘削工事作業期間延長、及び大規模改造工事開始時期変更
- 「ちきゅう」: Cairn社の掘削工事作業の早期終了

■ 契約済

■ 工事・待機等



■ 前回発表計画からの主な変更箇所を示す

# 連結業績予想要約



単位:百万円 (百万円未満切捨て)	2012年3月期 前回予想 (8月4日発表)	2012年3月期 今回修正 (2月9日発表)	増減	増減率
売上高	28,585	28,444	△141	△0.5%
営業利益	4,015	5,043	+1,028	+25.6%
経常利益	4,561	4,541	+21	+0.5%
当期純利益	3,221	2,883	△339	△10.5%

1株当たり 当期純利益(円)	179.00	160.17	△18.83	△10.5%
-------------------	--------	--------	--------	--------

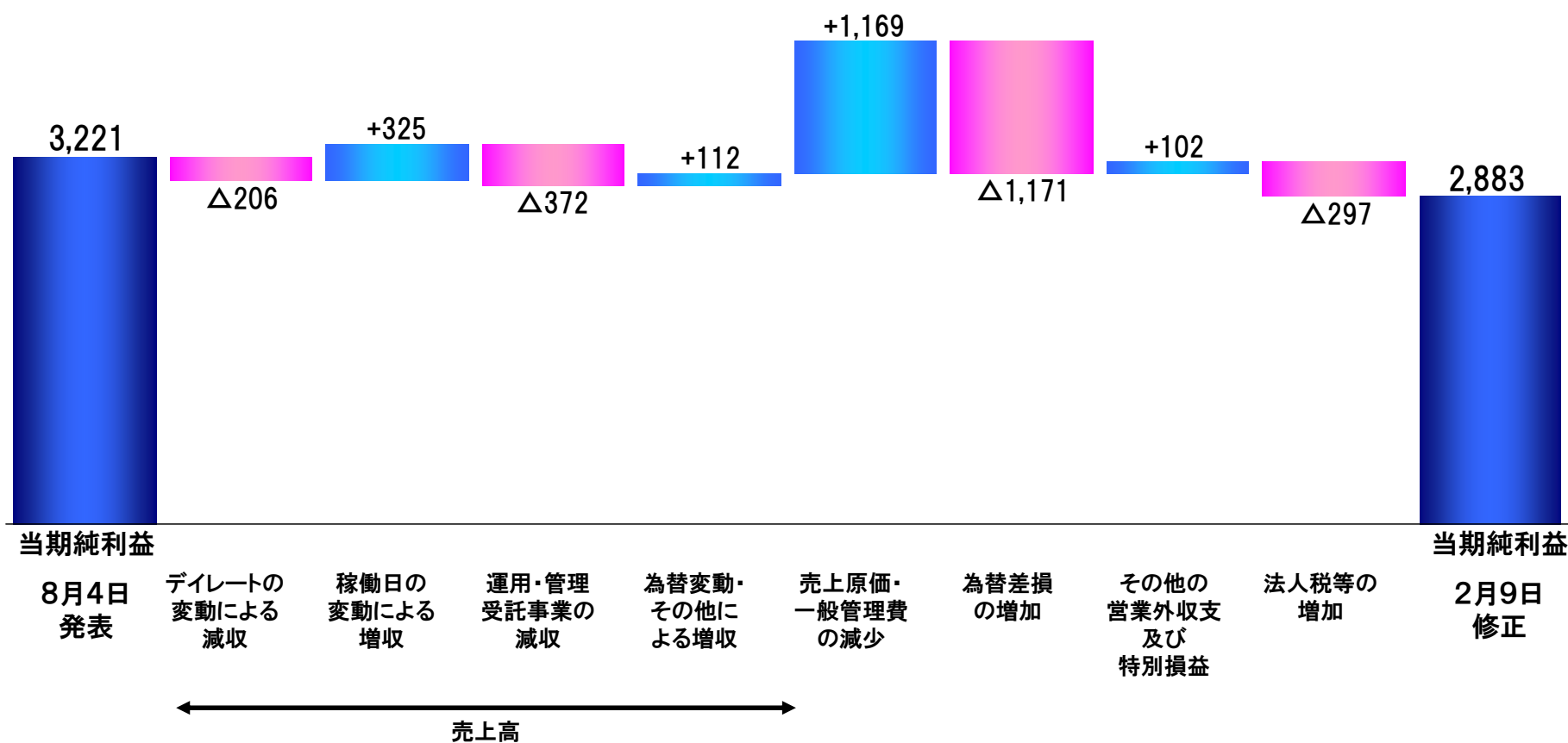
## 想定為替レート

8月4日発表(第2四半期以降)	: 80円/米ドル	110円/ユーロ
11月4日発表(第3四半期以降)	: 77円/米ドル	105円/ユーロ
2月9日発表(第4四半期)	: 77円/米ドル	100円/ユーロ

# 2012年3月期 当期純利益の増加要因



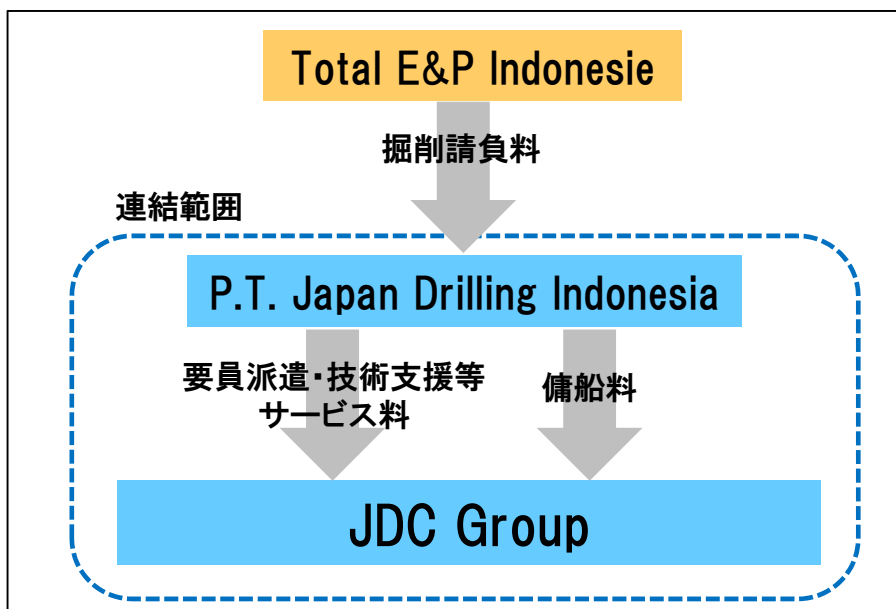
単位：百万円



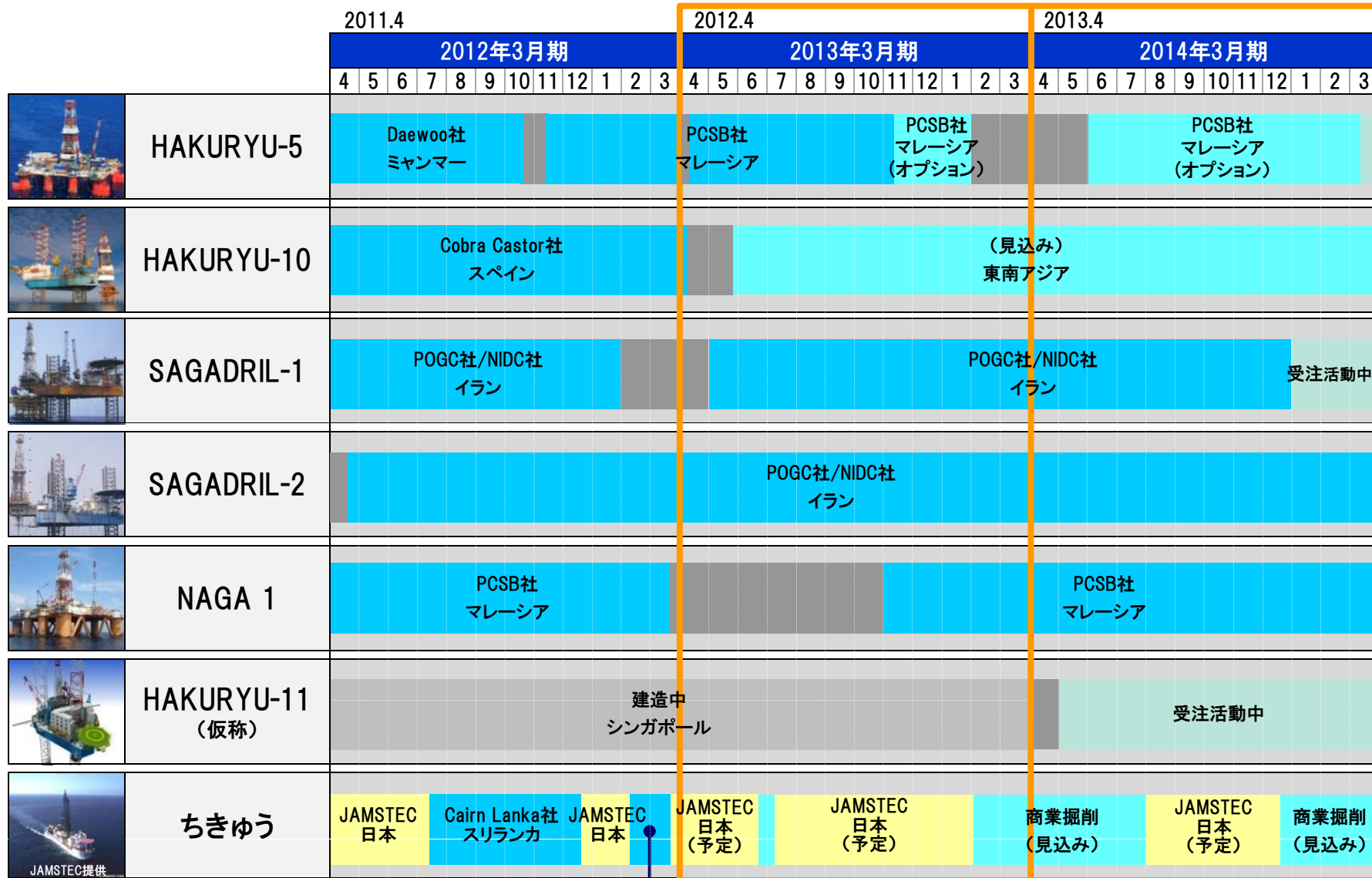
## Total E&P Indonesia 社のインドネシア・カリマンタン沖掘削工事を落札



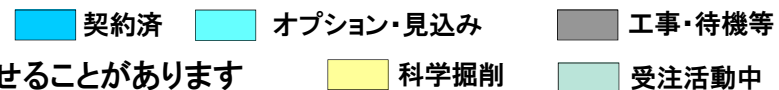
- ・ 契約先: Total E&P Indonesia
- ・ 受注者: P.T. Japan Drilling Indonesia
- ・ 操業海域: インドネシア・カリマンタン沖
- ・ 契約期間: ファーム2年+オプション1年×2回
- ・ 作業開始予定: 2012年4月から6月の間



# 2012年3月期～2014年3月期 リグフリート中期操業展開

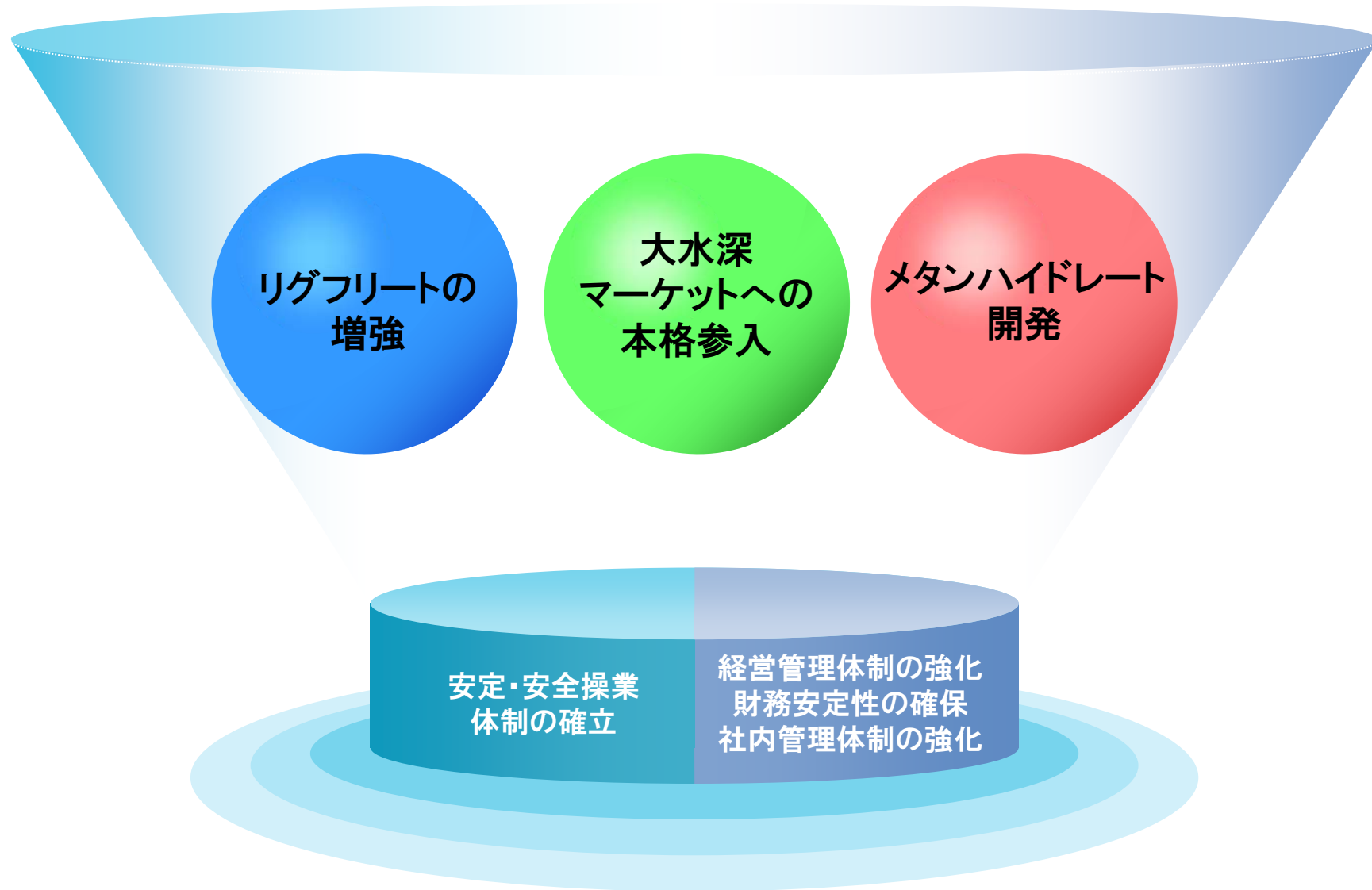


石油資源開発 日本



(注) 契約期間中でも、整備工事等のためにリグの稼働を中断させることがあります

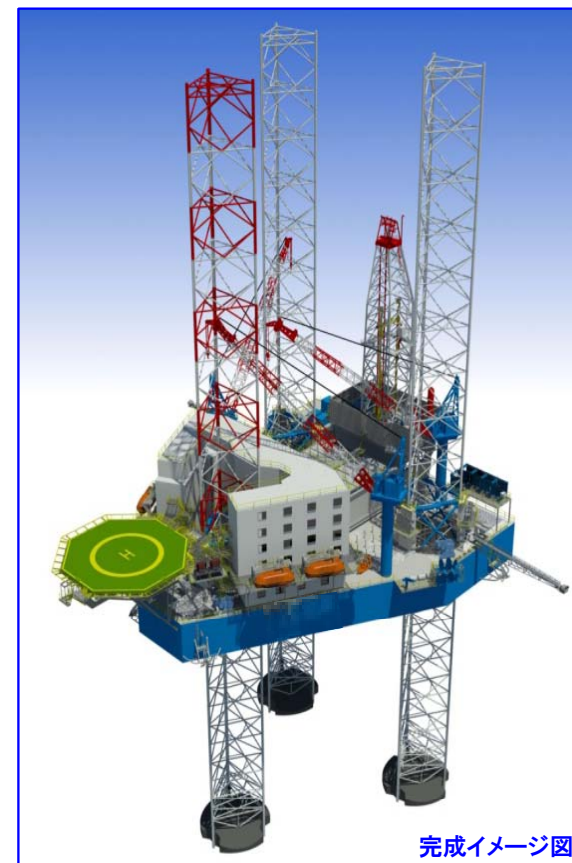
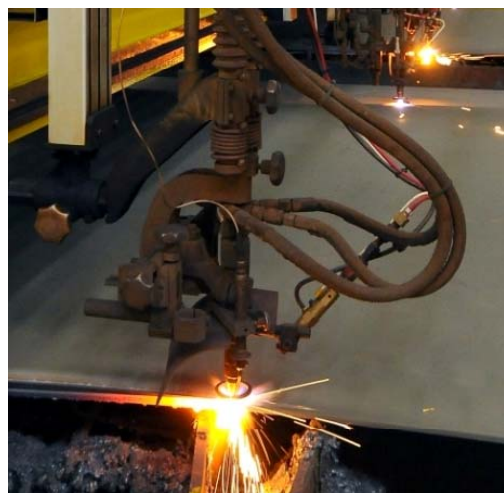
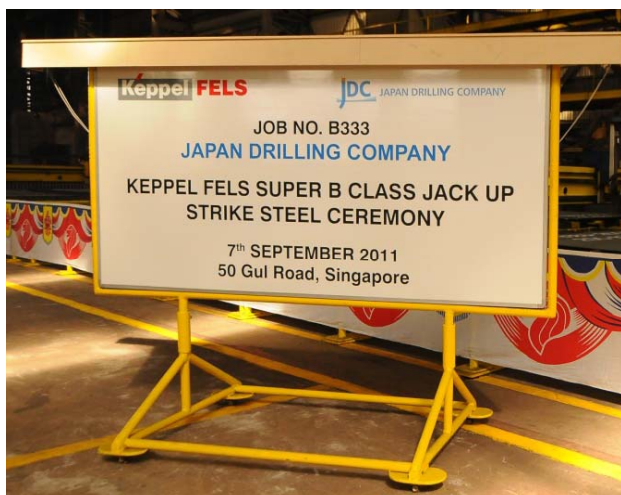
### 3. 成長戦略の実現に向けて







- 昨年9月にシンガポールの造船所にてストライク・スチール・セレモニーを実施、計画通り順調に建造中
- 完成引き渡し予定は2013年3月末
- 営業活動を鋭意展開中、東南アジア、中南米他から有望な引き合いあり



完成イメージ図

リグ  
増強

## 既存リグの大規模整備・アップグレード

### 「NAGA 1」大規模改造工事（2012年3月～10月実施予定）



2009年に「HAKURYU-5」に施した大規模改造工事を「NAGA 1」にも実施予定。日本国内の造船所においてDeepdishと呼ばれる一体型構造物をリグ船体底部に装着、リグ全体の剛性を向上し延命を図ると共に浮力を増強。

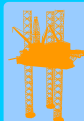
### 「SAGADRIL-1」整備工事（2012年2月～4月実施予定）



アラブ首長国連邦の造船所において本年2月より4月までの3ヵ月間、本格的な整備、改修工事を開始

リグ  
増強

## 新リグ取得に向けて



既存のプレミアムクラス・ジャッキアップ型リグの取得について、単独保有、共同保有、リース方式等、様々な保有形態を考察し引き続き追及中



プロジェクト化に向けて新セミサブマーシブル型リグ案件推進中

リグ  
増強

## 持分法適用関連会社Gulf Drilling International Ltd. (GDI社)リグ増強

### 新ジャッキアップ型リグ2基建造

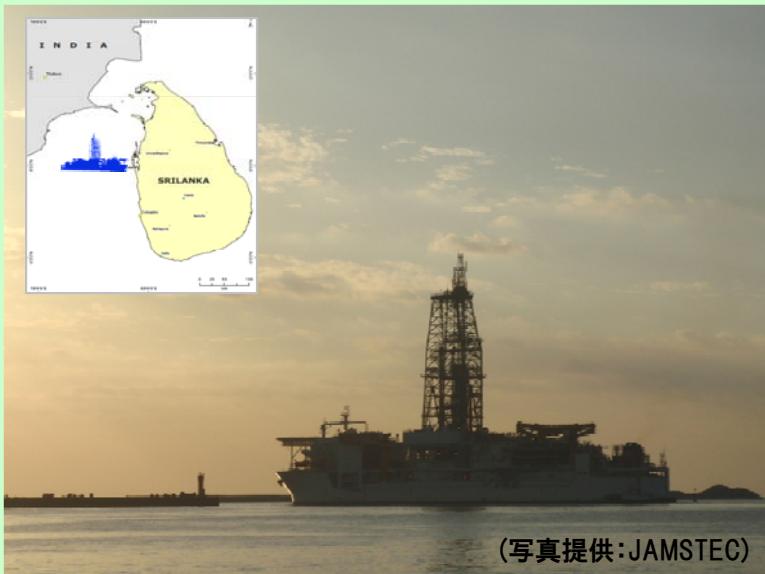


中東海域での作業のために最適設計された新プレミアムクラス・ジャッキアップ型リグ2基をシンガポールの造船所にて建造中。2013年秋及び2014年秋にそれぞれ完成予定

### アコモデーションリグ「ZIKREET」操業開始（2012年1月～）



昨年6月に中古ジャッキアップ型リグを1基購入、カタールの造船所において昨年末まで海上宿泊施設に転用するための改造工事を実施。本年1月下旬よりカタール沖で操業開始。



(写真提供: JAMSTEC)

## 「ちきゅう」: スリランカ沖から南海トラフへ

- 2011年8月上旬から当社にとっては「ちきゅう」による初めての受注工事となるCairn Lanka Pvt. Ltd. の掘削工事をスリランカ沖にて開始、同年12月中旬に全ての作業を完了。掘削した試掘井3抗の稼働水深はそれぞれ1354m、1508m、1346m。
- 太平洋南海トラフにおけるメタンハイドレートの海洋産出試験の準備作業として石油資源開発株式会社が実施する掘削工事のため2011年12月下旬に日本へ回航開始



## PETROBRAS社向けドリルシップ 「ETESCO TAKATSUGU J」 (エクイティ参加)完成

- 昨年12月に韓国・SAMSUNG造船所より引き渡しを受け、現在ブラジル海域にて操業準備中
- 最新鋭ドリルシップ建造に際し、日本側出資会社へのテクニカルアドバイザーを努めた
- 大水深掘削ビジネスに参画するためのマイルストーン



## メタンハイドレート開発計画(「海洋エネルギー・鉱物資源開発計画2009年3月 経済産業省」より作成)

フェーズ2		フェーズ3	
2009年度	2015年度	2016年度	2018年度
海洋産出試験に向けた準備 (2009~2011年度)	中間評価	海洋産出試験 (2012~2015年度)	最終評価
		技術課題、経済性評価、周辺環境への影響等の総合的検証を実施し、商業化の実現に向け技術を整備	最終評価

- 2001年7月に経済産業省が発表した「我が国におけるメタンハイドレート開発計画」は3つのフェーズに分かれており、当計画は現在、フェーズ2の段階にある
- フェーズ2では2012年度から2015年度の間メタンハイドレート海洋産出試験を日本周辺海域にて2回実施予定
- 石油資源開発会社より当社が落札した今回の南海トラフにおける掘削工事は海洋産出試験を準備するための事前掘削工事
- 作業内容: 観測井3坑、テスト井1坑、計4坑 (稼働水深:1000メートル前後)
- 観測井: メタンハイドレート貯留層のデータを集中的に取得するための検層用井戸
- テスト井: 海洋産出試験用にメタンハイドレート層の手前まで試験的に掘削する井戸
- 作業開始時期: 2012年2月上旬



(写真提供: JAMSTEC)

## 【本開示資料ご利用にあたっての留意点】

本発表資料に記載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、種々のリスク、不確実性および前提・仮定を内包しております。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。

これらの情報は、発表時点で入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいております。実際の業績は、これらのリスクや不確実性が顕在化しあるいは現実が前提・仮定と異なった場合、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しのみには全面的に依拠することは控えられますようお願いいたします。

また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社が将来の見直しを見直すとは限りません。

実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- (1) 当社の事業領域を取り巻く環境、特に原油・天然ガス価格の動向、国営あるいは民間の石油開発会社による探鉱開発活動の動向ならびに同業者間の競争やリグの需給関係
- (2) 客先による工事発注のキャンセルや工事契約の早期解約
- (3) 事故、災害、不可抗力等による作業の中断や工事契約の早期終了
- (4) 造船所でのリグ設備の保全・増強工事等の工期遅延や工事費用の増加
- (5) 海外での事業展開に伴う現地での政治的・経済的要因、戦争・暴動・テロ等の社会的混乱、その他のカントリーリスクによる不利な影響
- (6) 為替レートや金利の変動
- (7) 公的規制の改訂、変更等および訴訟等の法的手続の結果

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、以下にお願いいたします。

日本海洋掘削株式会社 経営企画室 IR・広報グループ 電話03-5847-5850(代表)